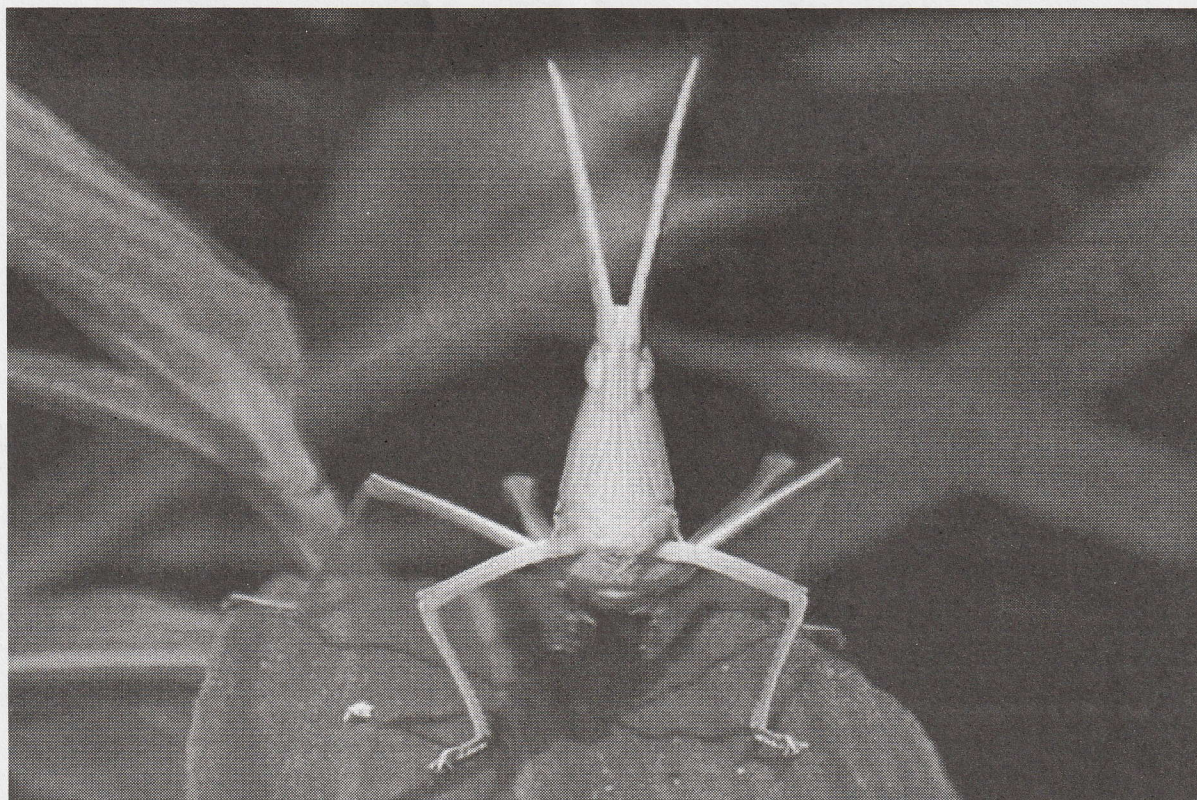


協議会ニュース

No. **175**

2022.9



Contents

- | | |
|-------------------------|-------------|
| 1 表紙 | |
| 2 フォローアップ研修会(7月30日~31日) | 名古屋支部 |
| 3 ネイチャ・フィーリング | 浅井 昭枝・葛西 美江 |
| 4 あいちの自然観察会報告(5/22) | 東三河支部 星野 芳彦 |
| 5 身近な自然体験会(6/05) | 名古屋支部 滝田 久憲 |
| 6 愛知県の外来植物7 | 東三河支部 瀧崎 吉伸 |
| 7 東谷山のシデコブシ(湿地シリーズ9) | 名古屋支部 石原 則義 |
| 8 支部自然自慢 | 知多支部 榊原 靖 |
| 9 振り返る自然観察 | 東三河支部 中西 正 |
| 10 40周年事業企画 | 東三河支部 星野 芳彦 |
| 10 ご案内/編集後記 | 事務局 |

今号の表紙

ショウリョウバッタの幼虫(♀) (自然観察指導員) 広永 輝彦
生き物のアップの写真募集中!

フォローアップ研修会報告

ネイチュア・フィーリング

名古屋支部 浅井 昭枝・葛西 美江

日 時： 7月30日(土)～31日(日)

場 所： 東谷山フルーツパーク

参加者： 受講生17名、スタッフ9名（日本自然保護協会6名、地元3名）

この研修会は、見つける・触る・匂うなど五感で感じる体験的な観察会の指導を目指すための研修でした。

経験豊富な講師の方から観察の手法を学び、葉っぱの形状や厚み、硬さなどの感触を肌で感じることや、足元に落ちている小枝などを拾って感触を確かめる体験型の観察方法をいろいろ考察してみました。

日頃普通に感じていることを、改めて言葉で伝え合うと各人の感じ方が違うことを再認識できました。多様化する観察会参加者のため豊かな想像力と五感を使った観察会はまだいろいろな手法が見つかりそうだと思います。

浅井 昭枝



野外実習



野外実習

私は庄内緑地ネイチュア・フィーリング自然観察会で活動しているのと、小学生や特別支援学級を対象に自然遊びをしているので、そのノウハウを身に着けたいと参加しました。初めは漠然と「五感で感じればいいんだ」と思っていたのですが、そうではないことに気づかされました。3人の講師の先生方の野外自習を体験したところ、声掛けに誘導されながら樹木を触ったり、匂いを嗅いだり、葉擦れの音を聞いたり、目で見たりと観察したのですが、五感を通して一本の樹木のしくみや子孫を残す方法、どんな環境条件で生育するかなどを自然に教わっていることに気づいたのです。指導員として参加者に五感で感じてもらうことはとても大事ですが、ある程度の自然の知識がないと観察を深めることは難しいと思いました。また、感じたことを声に出し合い、「あっ、ほんとだ!」「そうですよね～」と共感したり、気づきを共有することの大切さも知りました。感じたことが自分だけでないと安心したり、自分が気づかなかったことの発見があるからです。

私が自然観察に出会った時、見るもの聞くものの、感じる自然も指導員さんの言葉も全て新鮮でワクワクしました。いつしか指導員になりたいと思うようになりましたが、ふとメモを取ることに必死になり、目の前のありのままの自然を感じていない自分に気がつきました。

”体験が第一、解説は二の次”。参加者の皆さんにまずは自然のありのままを感じてほしい。指導員も参加者もなく、感じたものを共有したい。でも感じるだけで終わらないよう、その自然の魅力や大切さが伝えられるよう知識は深めたい。感じることと知識を伝えること、難しいですがそのバランスをとることが大事なのだと思いました。

葛西 美江

「あいちの自然観察会」実施報告

「NHK 朝の連続 TV 小説『エール』の舞台で表浜の自然をみんなで『考^{かんが}エール!?!』」

伊古部海岸自然観察会

東三河支部 星野 芳彦

東三河支部は、会報今号の別ページの記事の通り、創立 40 周年を迎え、様々な記念事業を行いますが、その幸先として、5月 22 日(日)に豊橋市伊古部海岸を会場として自然観察会を実施しました。

お天気も幸いして、一般 23 名(名古屋支部からもお越しいただきました。遠くまでありがとうございました。)と当会スタッフ 17 名の計 40 名の参加で実施されました。



会場は、皆さんご存じのあのドラマのロケ地になった遠州灘に面した砂浜です。海釣りやサーフィンの適地であることは言うまでもなく、県内で海の雄大さを実感できる自然観察スポットです。

ここでの自然観察会は、2020 年度に計画されましたが、コロナ禍で実施が出来ず、今回、満を持しての実施となりました。

海岸までのスロープ…ここは、渥美半島を特徴付ける独特の地形「海食崖」の為、数十メートル下って波打ち際にたどり着きます。その下り坂の手前には、地元の皆さんの管理する「ささゆりの里」があり、丁度見頃を迎えていました。

会場近くが生れ故郷のである神戸さんの話から開始です。1707(宝永 4)年にこの地方を襲った大地震と



津波の被害について地元のお寺に残る絵馬を資料に解説が進み、海食崖の高台にある、震災鎮めの碑から遠州灘を見おろしました。冒頭の海の景色は、そこで撮影したものです。

その後、海岸へ下りました。ここで下のよな海浜植物が観察できました。

コウボウムギ

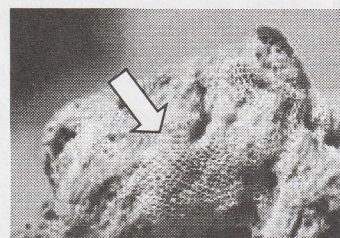


ハマボウフウ



次に、砂浜に移動して、海食崖の観察、砂浜の表面にできる風紋も観察しました。

付近をビーチコーミングして、貝殻やプラゴミなども集めました。そこで見つけた「お宝!?!」(下の画像)です。軽石とコケムシの付着痕です。私自身初めて観ました。



災害の歴史から貴重な自然の現状、プラスチックのゴミ問題といろいろと考えさせられることの多い有意義な観察会でした。

最後に海岸の砂クイズです。下の 3 つの内、伊古部海岸の砂はどれでしょう？残り二つは、豊川河口・恋路ヶ浜の砂です。



(正解は一番右)

身近な自然体験会

名古屋支部 滝田 久憲

日 時：6月5日（日）

場 所：守山区東谷山山麓

参加者：一般21名（うち子ども12名）、
行政2名、大会指導員5名

名古屋支部では名古屋市環境局と協働で、「東谷山山麓の水辺で生き物を探そう!!」というテーマで自然観察会を実施しました。

この身近な自然体験会は2000年から開催されている「環境デーなごや中央行事」の地域版として、子供たちが身近な自然に触れながら、環境問題を考えるきっかけとなるよう企画されました。

今回の身近な自然体験会を実施した東谷山は標高が198mあり、名古屋市内で一番高い山です。樹木の数などが多いことから、森からの湧き水の量も多く、その山麓にはいくつもの湿地群が形成され、それらがいくつかの支流となって、庄内川に注ぎ、最終的に名古屋港までつながっています。

今回訪れた大矢川最上流部は、東谷山の南西部の谷筋を水源とした湧き水と近くにある湿地群からの流出水、愛知用水からの越流水などが合流する場所です。川幅が約1mの水路となって流れ、水路の水際にはたくさんの植物が生えています。

午前9時を過ぎた頃、集合場所となっている東谷山フルーツパークの第一駐車場に参加者が集ってきました。

環境局職員からの説明やリーダーによる注意事項などの説明の後、東谷山の林縁沿いに進んで、尾張戸神社参道付近から道路を横切り、観察地点に向かいました。

スタッフが水路に入り、安全確認などを行った後、子どもたちが水路に入り、生き物採取を始めました。途中、水分補給のための休憩を挟み、2回の生き物採取を行いました。また、これと並行して、パックテストによる水質試験などを行いました。最後に、リーダーから採取された生き物についての説明がありました。

カワムツやトウヨシノボリなどの魚、各種トンボのヤゴ、トビケラやガガンボなどの水生昆虫、スジエビ、アメリカザリガニなどの甲殻類、ニホンアカガエルやケラなどが採取されました。

水質試験では、どの水もCOD濃度は低く良好で、鉄イオンが多く含まれていました。この鉄イオンは森などで作られる腐植成分と結合して、海の生き物の栄養分や、海の浄化に寄与しています。

今回の身近な自然体験会で、大矢川の最上流部には多様な生き物が生息し、東谷山と名古屋港の自然がつながっていることが分かりました。



大矢川最上流部での生き物観察

愛知県の外来植物 7

東三河支部 氏名 瀧崎 吉伸（愛知県外来種検討委員）

尾張と三河 帰化植物相の違い

愛知県と一口に言っても、尾張と三河では帰化植物事情がだいぶ違います。それは恐らく、尾張への帰化植物の侵入経路と三河、特に東三河への侵入経路が相当異なることが原因です。

尾張には、羊毛クズ由来の帰化植物が大変多く見られます。オワリセンダングサやコバノセンダングサなどはその代表と思われます。1978年に、名古屋市北区の羊毛を処理していた紡績工場跡地で、アザミゲシ、トゲオナモミなどという非常に珍しい外来種を採集したことがあります。

もう一つの侵入経路は、名古屋港や飛島村などを中心とする木材やコンテナの輸入に伴うものです。2017年10月に飛島村で採集されたセンニチノゲイトウや2009年に金城埠頭で採集された地面にべったりと這うように広がり、果実の落ちた後の軸がジグザグに見えるジグザグスズメノヒエなどは、現在までに県内（ジグザグスズメノヒエは国内でも）の他の地域では確認されていません。名古屋港や名古屋市内には、なぜか、琉球や小笠原でよく見られる外来種が見つかります。タチナハカノコソウ、

コフウセンカズラ、ジュズサンゴなどがそれです。一年生の植物は定着し切れていませんが、灌木になるジュズサンゴは名古屋駅付近で定着しています。

東三河では、園芸植物由来の帰化植物とあわせて、養鶏飼料用の穀物輸入に伴う帰化植物も見られます。園芸植物由来のものとしては、ポンポンアザミやヤサカフウロなどが挙げられます。アクアリウム由来の植物も東三河が国内最初の発見地となってしまったものがあります。ミズヒマワリとハビコリハコベです。

変わったところでは、水田畦畔管理の目的で導入されたと思われる植物も見られます。カロライナツユクサやシマイボクサ、ヒメイワダレソウなどがそれです。カロライナツユクサは知多半島でも一時導入されたようです。ヒメイワダレソウは市街地でもグリーンカーペットにしようと導入されていますが、大形雑草が侵入すると負けてしまいます。

ハリゲナタネ



飼料とともに侵入したであろう植物に、ハリゲナタネがあります。明海埠頭に繁茂しましたが、近年は鶏糞由来と思われる個体も豊橋市南部の畑から見つかりました。

ジグザグスズメノヒエ



東谷山のシデコブシ(湿地シリーズ9)

名古屋支部 石原 則義

東谷山周辺はシデコブシ自生地として大きな群落であり、シデコブシの天然更新がされていることから、名古屋市のシデコブシの保護上、極めて重要な自生地と言える。ここでは成木が 160 本生育している。

エリアⅠでは、三菱電機(株)が保全作業を続けている。上流部に倒れたシデコブシが重なり合っているため伐採が必要であるが沢筋であるためにその作業が困難となっている。幼木も見られないため、実生が育つようにネザサを刈り取る必要がある。また、太陽光を遮っている樹木もあるため、それらへの対策が必要である。

エリアⅡでは、湿地にチゴザサが繁茂し、シデコブシの林床を脅かしていた。そのためシデコブシの幼木と成木に日光が入るように下草刈りや間伐を心掛けてきた結果、幼木の生育が見られた。また、中島でも幼木が生育しており、花の多さに比べると結実が少ないようにも思われるが、中には、多数結実しているものも見られた。

エリアⅢでは、人の手入れが行き届いていないために風の通りが悪いという問題がある。また、谷筋を明るくするためには、周囲の樹木を伐採する必要があることに加えて、立ち枯れの除去や倒木の後片付けも急務であると考ええる。

エリアⅣでは、フェンス内でシデコブシが生育しており、環境が良いことから大きく育っていたが、数メートルの幅で、交通の妨げになるという理由から、大木2本が切られてしまった。ヒコバエを期待したい。

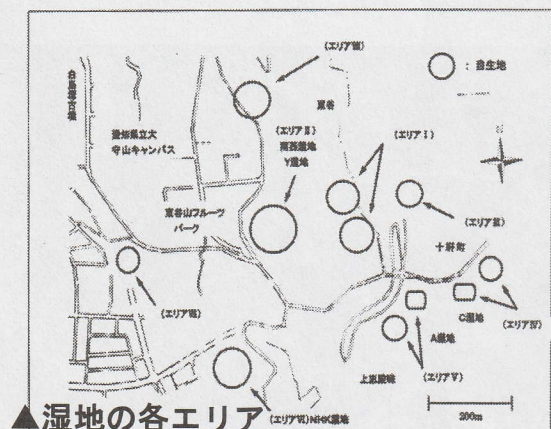
エリアⅤでは、活動を開始された2004年頃から2～3年に一度の頻度でシデコブシに絡まっているツル植物を取り除いたり、周囲の樹木の間伐して生長を見守っている。

エリアⅥでは、林床のネザサを刈り、日光が入りやすくなるよう間伐していききたい。

エリアⅦでは、シデコブシが断崖の傾斜地にある。不透水層から浸みだしている湧水のお陰で、シマジタムラソウ、ミズギボウシ、ゼニバサイシンなどの希少種が育っている。一方で、宅地造成が近くまで進んでおり、今後の湧水への影響が懸念される。

エリアⅧでは、北西側の谷筋は倒木が目立っていたため、鬱蒼としている場所から、伐採を試み、倒木の後片付けを行った。中央の谷筋についても定期的な手入れが行われてきたが、2020年の前半以降はコロナ禍で活動が休止状態となってしまったため、風通しが悪くなっている。また、南東側の谷筋は人の手入れが入っていないため、立ち枯れや倒木もあり、風通しが悪く、森が荒れているため、立ち枯れの除去や倒木の後片付けが急務であると考ええる。

最後に、東谷山周辺のシデコブシを“郷土の宝”として次の世代に残していくことが、私たち保全をするものの使命であると考えている。人の手を入れなければ、名古屋市からシデコブシが絶滅する可能性も考えられる。今後もみんなで手を取り合って、シデコブシを含む希少種を守っていききたい。



支部自然自慢

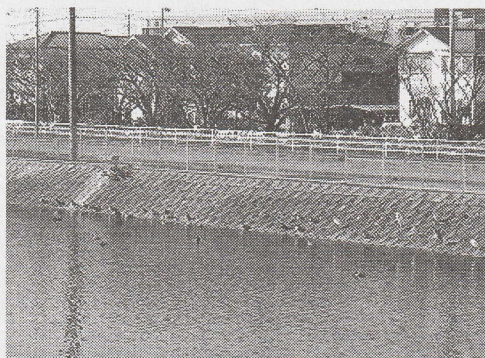
知多支部 榊原 靖

今回の支部自慢は知多半島各地で行っている観察会のうち、「鳥」をメインにした観察会を紹介します。

「康衛池のカモと阿久比川河口の生き物」

場所；半田市瑞穂町

恒例となっている観察会で、例年 12 月初旬に行っています。康衛池は小さなため池で周りがフェンスで囲まれているので人が池面に近づくことができません。それで鳥たちが安心していいのか、割と近くで観察することができます。この観察会の目玉は何と言ってもセイタカシギ。高確率で康衛池もしくは阿久比川の河口部で群れが見られます。



康衛池 護岸でくつろぐ鳥たち

「冬の風物・海辺の鳥を見よう」

場所；美浜町 名鉄河和口駅前の海岸

例年 1 月下旬、一年で最も寒い時期に行っています。鳥メインの観察会のうち唯一海で行われます。海ガモ類やカモメ類、シギ・チドリなどが見られます。



河和口海岸 貝殻拾いに興じる子も・・・

「佐布里池に集まる野鳥を観察しよう」

場所；知多市 佐布里池

佐布里池周辺は自然が豊かで、冬季には多くの野鳥が観察できます。運が良ければ広い池面で獲物を狙うミサゴの姿が見られます。

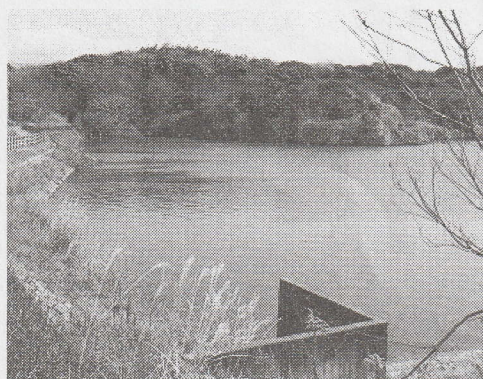


上空、ミサゴのホバリングを見つめる参加者

「冬鳥と旅鳥、カワウの子育て」

場所；美浜町 鵜の池、菅田池

鵜の池とその周辺の「鵜の山ウ繁殖地」は、知多地方に二つある国指定天然記念物の一つ（もう一つは南知多町師崎の羽豆神社の社叢）です。鵜の池ではカワウの他に多くのカモ類も見られます。菅田池ではこの時期カワウの子育ての様子が間近に見られます。



鵜の池 水面には多数のカモ類がいる

以上紹介した観察会の他にも鳥メインの観察会が、主に冬季を中心に行われています。ご参加お待ちしております。知多自然観察会のホームページに予定表が載っていますので参照してください。

振り返る自然観察

東三河支部 中西 正

コロナの合間を縫って清里に行き、清泉寮に寄った。ここを最初訪れたのは 1988 年、自然観察を取り入れた環境教育フォーラムに参加するためだったが、そこには協議会の初代会長の大竹さんも参加されていた。清泉寮の玄関に立つと、当時を思い出した。今回は孫と一緒に、そこにある観察トレイルを歩いてきた。

自然観察指導員の元締め、日本保護協会の会員には 1968 年になった。そのためか、2019 年には、「30 年以上の長きにわたって会員だったことと、指導員養成 40 周年記念に」と、表彰状が送られてきた。協議会の初期からの会員も同様だったことだろう。

改めて振り返ると、この頃日本保護協会は新しい自然観察を標ぼうし始めていた。愛知県でもそれに乗って新しい自然観察を始めた。この動きに大きな力になったのが、現在の愛知県環境局環境政策部自然環境課に相当する農地林務部自然保護課にお勤めの佐藤国彦さんだった。彼は、その後長く協議会の事務局をしてくれていた。

当時の自然観察会は、物知りが、目の前にある花を取り、参加者の前にかざしながら、その含蓄をとうとうと喋るものだった。動物でも飛んでいる虫を捉え、三角紙に入れた状態で同様の話をする。知識の習得には時間がかかり、講師になる人は限られていた。それが、自然観察指導員講習会が開かれると、多くの人に自然保護や自然を解説する道が開けた。初期の講習会は参加者であふれていた。新しい自然観察会のテーマは「取らない」「種にこだわらない」「生きた様子を見る」などだったと思う。講習を受けて、その観察法を身につけたはずなのに、いざ解説をする時には、ついつい形質や種類にこだわるといった古いクセが出ていた。私はこれを「形状記憶合金」

呼んだ。これらのことは古い講師が身につけているだけでなく、社会全体の体質だったかもしれない。新しく、講習会を受けた人でも、そうになってしまうのだから。それだけに自然保護協会の方法は革新的だったと言える。

かくいう私が、当時でいう新しい自然観察会を身につけているのか。私の中に古い私が残ってはいないか、と振り返っている。多くの場所で「自然観察会」が催されるが、その形態はどれも同じようだ。その方法が置き換わって画一化したならともかく、置き換わらずに古い方法がそのままになっているかもしれない。いずれにしても今一度新しいムーブメントが必要かもしれない。

清泉寮からは富士山を真正面に見ることができる。今回は、靄でその輪郭がぼんやり見えていただけだった。



上：大竹氏
下：佐藤氏



創立 40 周年記念事業

「明日に伝えよう、すばらしき東三河の自然！」

東三河支部 星 野 芳 彦

我々東三河支部は、2022 年に創立 40 周年(NPO 化は、20 周年)を迎えました。そこで昨年より記念事業の実行委員会を立ち上げ、準備に入っています。以下、その概要をお知らせします。

まず、事業全体の総合テーマとして、「明日に伝えよう、すばらしき東三河の自然！」を設定し、このテーマに沿った次の 5 部門の事業を展開していきます。

①「東三河の自然展」を 9 月 21～25 日に豊橋動植物総合公園内のイベントの部屋で実施します。会場には、当支部（当 NPO）を紹介するパネル、パンフレットの展示、会員の出版物のコーナーがあり、当支部の概要を紹介します。

次に具体的な展示内容をご説明します。まず、会員によるひとり 1 点の写真展です。これは、東三河の自然を紹介するもので、ジャンルは問いません。各自の作品には、タイトルと何らかのキャプションを付け、居ながらにして東三河の自然に触れられます。これには、会員 26 名が出品します。

東三河支部には、様々な分野に長けていて、個人的に研究や調査をしているメンバーが少なくありません。そこで、植物や動物を問わず、実物や標本、調査結果などの発表を展示スペースのかなりの部分を割いて行います。これには、20 名の会員から展示物があり、さながら、「東三河のミニ自然誌」に相当するのでは、と自負しています。

展示会場の一角には、デジタルサイネージによる東三河の自然紹介コーナーがあります。

開園中は、会員製作による 5 分ほどの 11 番組が常に放映され、来場者は、居ながらにして東三河の動物や植物などの自然を垣間見ることが出来ます。

別の一角は、どんぐりや松かさ、数珠玉などを用い

た自然素材のクラフトワークショップ「どんぐり工房」が設けられます。例年、豊橋まつりの関連イベントとして参加していますが、家族連れの方々にとても好評で、大人も楽しめます。

我々のメンバーで、観察会の中に、紙芝居を使った解説を得意とする方がいます。今回の自然展で「自然についての紙芝居」を上演したらとの発案があり、その方を中心に 8 名のスタッフが編成されました。（星野もその一人です…）演目は、オリジナル作品中心で計 11 作品。これら紙芝居作品を自然展期間中に上演します。（木製舞台を使用した本格的な紙芝居です。）

② 2023 年 1 月 14 日(土) 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT のアールスペースにて、基調講演会と実践発表会があります。講師には、7 月に、文一総合出版から写真集「となりのホンダギツネ」を出版した動物写真家の渡邊智之氏をお招きします。渡邊氏は、自らを「自然と人をつなぐ写真家」と名乗り、そのファインダーから感じた自然と人との関わりを大いに語っていただく予定です。

当会からは、東三河に生息するムササビを調査している森拓矢さん、この地域を中心にカエルの調査をしている杉浦公亮さんによる実践発表も同時に行われ、記念事業のフィナーレを飾ります。

記念行事の大きなイベントをご紹介しましたが、次の事業も記念事業として実施します。

③この 20 年の活動のまとめと会員の投稿による 40 周年記念誌の発行。

④当会ネーム入りルーペの会員全員への配布。

⑤テーマに沿った自然観察会の実施。

なお事業の詳細は、下記 HP をご覧下さい。

<https://www.higashimikawa-shizen.jp/>

指導員研修会・指導員養成講習会

実施日	時間	実施場所	テーマ	集合場所	担当
10月10日 (月・祝)	10:00~12:00	海上の森	キノコの研修会	海上の森 入口駐車場	県協議会
10月22日 (土)	8:00~14:30	稲武野外教育センター	ムクロジ科の研修	第1本館から 面の木園地	県協議会

東三河の自然展 ご案内

主催 NPO法人東三河自然観察会 創立40周年事業

- 日時：2022年9月21日(水)～25日(日) 9:00～16:00(最終日は15:00)
- 場所：のんほいパーク(豊橋総合動植物公園)植物園ゾーン、イベントのへや
- 内容：東三河の自然(自然とスライドショー)。：紙芝居・どんぐり工房(工作体験
10:00～11:30 13:00～14:30)。：実物展示(植物標本など)
- 交通機関：JR東海「二川駅」南口より徒歩約6分
自家用車：国道1号線「大岩町本郷」信号を南進し、東門駐車場(料金200円)が便利です。
問い合わせ先：NPO法人東三河自然観察会 会長 080-3672-0044(星野)
詳しくは県協議会のホームページ参照 ※のんほいパークへの入園料が必要です。

<編集後記>

創立40周年記念事業(東三河支部・知多支部・名古屋支部)3支部掲載予定が、知多支部・名古屋支部の予定が未確定のため、協議会ニュース175号に掲載できませんでした。
東三河支部に紙面を埋めていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。
協議会交流の日は、知多支部が担当でしたが日程のめどがたっていないということで、掲載を断念。元会長の中西正さんに急遽原稿をお願いしました。
協議会交流の日については日程が決まり次第、県協議会のホームページでお知らせします。

編集スタッフ	石原則義 内海勇夫 岡田雅子 馬場隆之 平山希能
協議会ニュース編集部	石原則義 事務局に同じ

愛知県自然観察指導員連絡協議会(あいち自然観察会)事務局 石原則義

〒464-0096 名古屋市千種区下方町7-3 TEL/FAX : 052-711-3087

E-mail : norinameobata@yahoo.co.jp Web Page : <http://anoicm.sakura.ne.jp>

郵便振替口座 : 00820-9-6546 (名義 : 愛知県自然観察指導員連絡協議会)